

ステータス:	終了	開始日:	2007/05/26	
優先度:	通常	作業時間の記録:	0.00時間	
担当者:				
カテゴリ:				
対象バージョン:				
説明				
履歴機能など追加				
関連するチケット:				
関連している Bug # 3: (V5.00)Muse演奏終了時に音源がリセットされる	終了	2007/05/26	2007/05/27	
関連している Bug # 2: (V5.00)S-YXG50を使用時にMuseが落ちることがある	終了	2007/05/26	2007/05/27	
関連している Bug # 4: (V5.00)フィンガー拍数のプルダウンメニューから「V: 音量」が消える	終了	2007/05/26	2007/05/27	
関連している Bug # 5: (V5.00)フィンガー拍数のプルダウンメニューが文字化けする	終了	2007/05/26	2007/05/27	
関連している Release # 94: Muse V5.01	終了	2007/05/27	2007/05/27	
関連している Release # 95: Muse V5.02	終了	2007/05/28	2007/05/28	

履歴

#1 - 2014/01/06 22:10 - Redmine Admin

; 《Ver5.0 開発後記》 2007.05.18

;

; Museのバージョンも5.0となり、初版から8年もの歳月が経過しました。初版開
 ; 発当時の自分が何を考え、何をしていたか顧みるとその長い年月を強く感じます。
 ; 今回のバージョンアップ項目は結果的に盛り沢山となりました。当初はそれ程欲
 ; 張るつもりは無かったのですが、徐々にMuseのプログラムコードを目の前にし、
 ; 強化を着手してみると、その先に利用者であるミュージーの皆さんの顔が浮かん
 ; できて、あれもこれも手を付けてしまいました。(昨年9月にMuseオフ会が
 ; あり、生まれて初めてオフ会になるものに参加しました。実に楽しかった・・・。
 ; という訳で、ミュージーの皆さんの顔がリアルに浮かぶようになりました)笑
 ; まずは桁上がりバージョンに相応しく新メニューを加えました。履歴機構です。
 ; 既に私の手元には5,800曲を越えるMuseデータが存在します。一応体系的にデー
 ; タ管理はしているのですが、ロードまでの手数がどうしても掛かります。そこで
 ; 巷のアプリケーションの様に、履歴を覚えていくことにしました。実装を終え、
 ; しばらく試験運用していると、一過的な履歴だけでなくそれをパーマメントに記
 ; 憶するアルバム機構も欲しくなりました。しかし必要以上に煩雑な機能
 ; 構造にはしたくありません。通常は履歴機構だけが見え、アルバム機構が欲しく
 ; なった人が何かをすると初めてそれを享受できる。そんな思想で組み込みたいと
 ; 考えました。アルバムの編集に関して、はじめは手の込んだダイアログを開発し
 ; ようとも思っていたのですが、Muse利用者のミュージーたちはテキスト編集はお
 ; 手のものはず。ここはミュージストらしく、ダイレクトに履歴ファイルを編集
 ; してもらおう方針で行こうと決めました。お陰で、実にすっきりとした機能仕様
 ; になったと思います。ミュージーの皆さんが開発されたMuse支援ツールのように高
 ; 度なアルバムの編集や再生の機構は持っていませんが、簡易版としては十分使用
 ; に耐える出来だと思っています。ぜひ試してみてください。
 ; 圧縮解凍ソフトやメールの添付から直接Museデータを立ち上げる場合、Windows
 ; のテンポラリフォルダからデータがロードされますが、その際Museのメインウィ
 ; ンドウタイトルが長くなりすぎて演奏時間が表示されないという不満が、少なく
 ; とも私自身には強くありました。私にはそのシチュエーションがとても多いので

す。そこでちょっとした改善ではありますが、テンポラリフォルダは@マークに集約して表示することにしました。更に今回新設した履歴も更新しないようにしてあります。次回アクセス時に「ありません」とエラーになるだけなのでテンポラリフォルダのデータを覚えても仕方ありません。こういった配慮はソフト設計でとても大切だと思うのですが、Microsoftの製品でも記憶してしまうようです。かねてより要望のあった「常に手前(T)」と「繰返し演奏(R)」を、起動引数にてONにするという機構を実現しました。更に、これもまた以前より要望の高かった、「データ編集(D)」におけるテキストエディタの任意指定も可能にしました。この指定は、直接初期化ファイル(muse.ini)に登録してもらうことにしています。ついでに履歴機構に対するいくつかの制御も、この初期化ファイルで行える様にしました。こうなってくると将来、この初期化ファイルにいろいろなユーザ指定を背負わせる可能性があります。そこで、今回初期化ファイルの書式を大幅に見直し、ユーザ指定領域[USR]とシステム管理領域[SYS]を明確に可読できるようにしておきました。フォーマットが変わったので、新バージョンを立ち上げた時、初回はウィンドウの位置や選択音源がデフォルトに戻りますが、次回起動時から通常どおり運行しますのでご安心下さい。また、Museの初期化ファイルは読み込み時の解釈を広く取っていますので、編集したことで立ち上がらなくなるといった悲劇が起りにくいようにしたつもりです。過去の話ではありますが悪名高いwin.iniのようなことはありませんので、果敢にお試し下さい。

Zメンバーをメロディパートに転向させるエクスクルーシブの存在を、草場さんから教えてもらったので、これを*DRUM コマンドとして実装しました。加えて、ソフト音源VSCは、このエクスクルーシブを単純送信するとブルースクリーンになって固まってしまうという不具合の存在と、それを回避する方法も教えてもらいました。Museコンパイラには、もちろんそのノウハウを埋め込んでおきました。こういう最適化があってはじめて、単なる“ファイル変換”ではなく“コンパイラ”であると胸を張って言えるのだと常々思っています。Museを使っている限り、文字通りブルーにならず音楽に没頭できますので、安心してお使い下さい。

フィンガー拍数の左肩にあった[偶奇]ボタン。単に4 / 4 拍子と3 / 4 拍子を切り替えるだけの影の薄い存在でしたが、今回このボタンを撤廃し譜面モニタの拍子切り替えと連動する様にしました。これで表示できる拍子のバリエーションが一気に広がりました。なぜ今までこの連動デザインに気づかなかったのだろう！これで、譜面モニタ・メンバー色一覧・フィンガー拍数が有機的に結びつく状態となりました。とても美しい構成です。もう一つフィンガー拍数に関して改修を行いました。あまりフィンガー毎に肌理細かく指定しない“x”指定をフッター部に移動し、リスト部を(ほんのちょっとですが)スリムにし可読性を高めました。本当は邪道な“?”指定こそフッターに降ろせ！という声が聞こえてきそうですが、私自身が多用しているため、残留をお許し下さい(苦笑)

Museの特徴の一つに、鍵盤上部エリアへのテキスト表示があります。これを活用したテキストアニメーションなど、Museによる表現の一大ジャンルになっているぐらいです。このTEXT系コマンドのデータは、MIDIファイルへのエクスポートの際、Lyricイベントで出力されますが、巷のMIDIプレーヤーではそれらデータの価値を発揮できず、単なる容量増にしかありません。そこで今回、エクスポートにおける保存のコモンダイアログを拡張カスタマイズして、最下部に“テキスト系コマンドのデータを出力しない”というチェックボックスを加え、オプション選択ができるようにしました。結果として期待したほどファイル容量は小さくなりませんでした。まあMIDI音源の負担を少なくする効果はあると思います。

長い時間放置したプログラムをまたメンテナンスし始めると、自分の開発したソフトであっても客観的な視点で検証することになりますし、またテスト段階でも、当時想定していなかったオペレーションをしたりして、新たな不具合を見つけ出すといった効能もある様です。今回もそんな不具合に遭遇しました。譜面モニタをスクリーンいっぱい横に広げた際に、その状態が初期化ファイルに記憶されないという不具合を見つけました。「ゲッ！いろいろ手を加えたので改悪してしまったか・・・」と一瞬思ったのですが、なんと過去バージョンでも再現する現

; 象でした。ウィンドウをスクリーンの四隅にフィットさせる機構との絡みがあり、
; この修正は結構難解だったのですが、どうにか手直しできました。
; もう一つ。これも不具合改善の範疇だと思います。今回の履歴機構の導入で次々と曲を
; チョイスしていけるようになったのですが、直前の曲の残響が激しい場合に、その
; コントロール効果が次曲に影響し、とんでもない演奏になってしまう症状を見つけ
; ました。この現象は、曲の切り替えをスピーディに行えば従来のバージョンでも出
; る症状なのですが、それが出にくかったのです。試みに症状の出るデータ群をエクス
; ポートし、それらMIDIファイルを使ってWindows Media Playerに連続ドロップする
; 実験をした所、全く同じ現象が起きました。つまり、MIDI音源のコントロールの本質
; 的な部分に関わる制御なわけです。オール・ノートオフやオール・サウンドオフ、リ
; セット・オール・コントローラなど、かたっぱしから送信を試みましたが事態は改善
; しません。MIDI仕様のマニュアルをよくよく読んでみると「NRPNで設定されたバ
; リューはリセット・オール・コントローラを受信してもリセットされません」とか
; 「プログラムチェンジ、バンクセレクト、ボリューム、リバーブ、コーラスなどはリセ
; ットしません」と書いてある始末。これじゃあ“オール”じゃないじゃん。リセ
; ット・チョット・コントローラとでも名前を変えて欲しいです(笑)。冗談はともかく、
; こうして大変な試行錯誤を繰り返している内にある方法を思い付き、結果として
; 解決に至りました。この対策の効果は素晴らしく、Muse上で演奏を停止すると
; 残響も含めてスパッと止まります。まるで竹を割ったかのような心地良さ。少々大
; 袈裟かもしれませんが、Museのプレイヤー性能は、Windows Media Playerを
; 凌駕したのかもしれませんが。とにかく、これで自信を持ってVer5.0を皆さんに
; リリースできるというものです。ううっ、今回の開発後記は今までの最長記録か
; もしれない(苦笑)。最近、改版頻度は低下気味ではありますが、これからも魂を
; 込めて開発を続けていく所存ですので、ミュージアンの皆様今後ともよろしく
; お願いいたします。8年経っても未だ開発項目の残リストは山のようにあるん
; です。

#2 - 2014/01/08 09:10 - Redmine Admin

- 題名を Muse V5.0 から Muse V5.00 に変更